



はたちの思い 一行詩の入賞作品が決まりました

毎年、20歳を迎える方に、夢や思い、決意などを一行詩にしてくださいませ。

今回は243点の応募があり、最優秀賞4点、優秀賞8点、佳作21点が選ばれました。

◆郷土への思い

【最優秀賞】

「だしかんさ。あんばようやれ。」
そんな故郷の言葉で成長できた自分。
今は都会で、あんばようやっとなるぞ！



野中大資さん
(一之宮地区)

◆家族や友達への思い

【最優秀賞】

リュック一つで帰省したはずが、戻るときには両手で抱えきれないほどの荷物に。この重さが頑張る理由になる。



野首杏佳さん
(高山地区)

◆自分の将来(職場や社会)への思い

【最優秀賞】

あの頃思い描いた今とは違う今。今後私に、世界にどんな変化が起きても、すべての人に優しくあり続けたい。



大幡万弥さん
(一之宮地区)

◆平和への思い

【最優秀賞】

平和のために小さなことでもしたい。誰もが誰かを救う力を持っているのだから。



小池真啓さん
(朝日地区)

全ての入賞作品は市HPで公開しています。ぜひご覧ください。

問合せ 生涯学習課 ☎35-3155
広報ID 1016324



〈連載〉多文化共生を考えよう③

今回は、多文化共生でよく聞く「やさしい日本語」について学びましょう。

◆やさしい日本語の歴史

1995年の阪神淡路大震災では、日本人より外国人の死傷率が高かったといわれています。災害情報がうまく伝わらなかったことが原因と考えられ、外国人でも理解できる「やさしい日本語」が注目されるようになりました。

災害が多い日本では、「やさしい日本語」が命を守る言葉にもなるのです

◆やさしい日本語のポイント

- 一文を短くする
 - 簡単な言葉を使う(小学2〜3年生レベル)
 - 外来語を使わない(例:ライフライン→英語では命綱を意味し、日本語とは異なる)
 - 二重否定を使わない(○○できないことはない→○できるなど)
- 今後も多文化共生に関する情報を発信していきます！

問合せ 海外戦略課 ☎35-3346
広報ID 1015598



起業家を支援する市の施設で、新たな店舗がオープン

市内産業のイノベーション(技術革新)や、新たな業種・業態の創出を図るための施設「飛騨高山インキュベーションセンター」に、自作キーボードを販売する店舗「白銀ラボ」がオープンします。

キーボードの販売はもちろん、キットを買ってお店で製作することができます。レンタルワークスペースもあります。ぜひ、お立ち寄りください。

問合せ 雇用・産業創出課 ☎35-3182
広報ID 1009753



▲白銀ラボ(有楽町・☎080-4363-2022)で販売する自作キーボード

